

米国大統領選挙を受けての日本市場の動向

ポイント① 米国大統領選挙の動向

前日まではヒラリー・クリントン候補優勢と見られていた米国大統領選挙は、日本時間の朝方までは大きな変化は見られませんでした。しかし、日本時間10時頃以降、メディアから出てくる情報は、激戦州となるフロリダ州等でトランプ候補が優勢となり、全体でもトランプ候補の優勢が伝わり始めました。

日本時間15時頃の米メディアによる選挙人獲得数は、トランプ候補が244に対し、クリントン候補が215に留まり、トランプ候補の勝利が濃厚となりました。

ポイント② 為替市場へのインパクト

朝方の米ドル円相場は平穏に推移し、10時ごろまでは105円台にのせる米ドル高方向で推移していました。しかし、トランプ候補優勢が伝わり始めると、徐々に円高米ドル安方向に動き始め、11時過ぎに102円台前半まで一気に円高米ドル安が進行しました。その後も円高米ドル安は進行し、15時頃には101円80銭程度となりました。

また、トランプ候補が勝利した場合にリスクとして懸念されているメキシコペソが大幅下落となり、日本時間15時には朝方に比べて対米ドルで10%を超える下落となっています。

ポイント③ 株式市場の反応

株式市場については、日米株式ともに米ドル円レートと概ね同様の反応となりました。

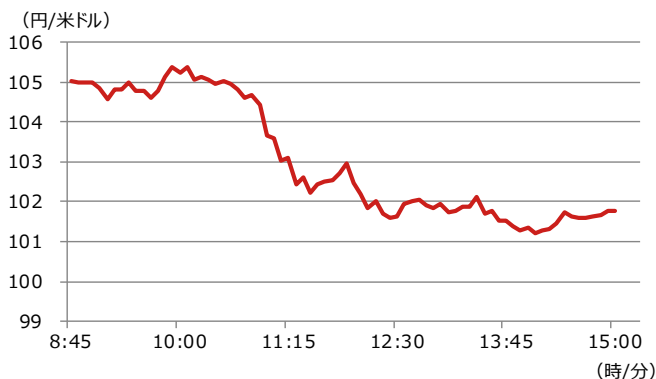
日中に連続的に動いている先物市場で見えますと、日経平均先物は10時過ぎには17,400円程度に上昇する局面も見られましたが、トランプ候補優勢が伝わると一気に下落に転じ、現物市場の午前の取引が終わる11時半頃には16,600円程度に急落しました。その後、昼休み中も続落し、15時頃には16,260円となり、大幅な下落となりました。なお、日経平均株価は16,251円、前日比919円安で引けました。

一方、大証で取引されているNYダウ先物は、朝方は大きな動きはありませんでしたが、日経平均同様、10時半頃から急落し、15時頃には17,500ドル程度となり、大幅な下落となりました。

市場予想に反してのトランプ大統領誕生となると、市場では当面リスク回避姿勢が強まるものと考えられます。ただし、EU離脱を巡るイギリス国民投票の時も当初は大荒れとなりましたが、徐々に平穏を取り戻したように、時間をかけて冷静さを取り戻すでしょう。

図1：米ドル円・為替レート

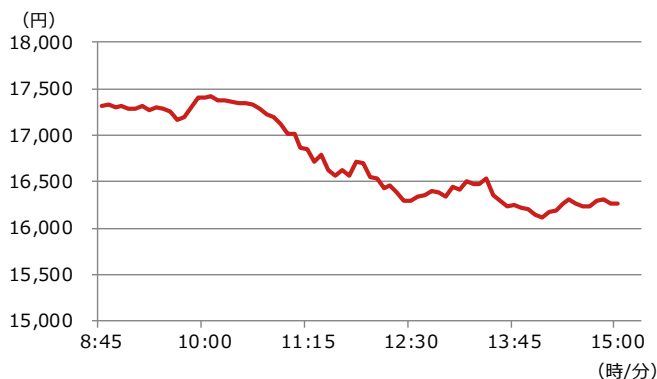
期間 2016年11月9日の日中5分足



(出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

図2：日経平均先物

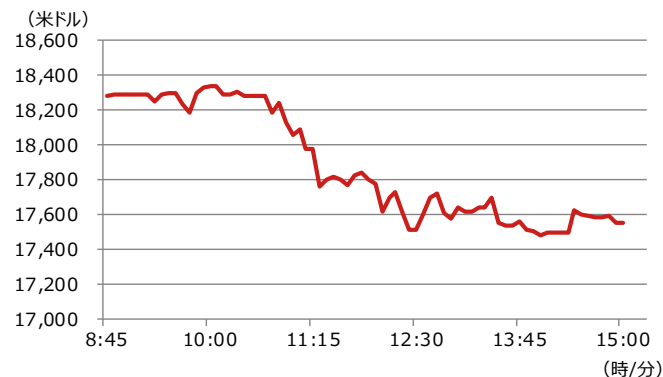
期間 2016年11月9日の日中5分足



(出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

図3：NYダウ先物

期間 2016年11月9日の日中5分足



(出所) Bloombergのデータより野村アセットマネジメント作成

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。